

(2) 「試験問題Ⅰ」で問われている力

次に、試験問題Ⅰの設問やマークバンド（解答例や採点基準）に基づいて、「指定学習項目」単元で問われている力を分析・考察していきます。

試験問題Ⅰは、資料問題を中心に4つの設問から構成されています（『指導の手引き』、pp.61—62）。4つの設問の配点は、以下のようになっています。

表Ⅰ－2：試験問題Ⅰの配点

設問	内容	配点
I (a)	4つの資料のうちの1つに対する理解度を試験する。	3
I (b)	4つの資料のうちの1つに対する理解度を試験する。	2
2	1つの資料に関して、その価値と限界を分析する。この分析に際しては、資料の出所、目的、内容に言及することが要求される。	4
3	2つに資料が「指定学習項目」の特定の価値を研究する歴史学者に対して示すものを比較・対比する。	6
4	評価を求める設問。この評価に際しては、資料と自分自身の知識の両方を活用することが要求される。	9

（『指導の手引き』、pp.61—62に基づき引用者作成）

さらに、(I)で示した【マーカスキーム】を見てみると、設問Ⅰ・2に関しては、文中で示されているポイントで加点・減点の判断をすることが求められています。設問3・4に関しては、採点基準表が示されているので、生徒の解答が基準表のどのレベルに適合するかを判断することが求められています。以下、詳述します。

設問Ⅰ (a) では、資料Kから要因を複数抽出することで、最大3点与えられることが【マーカスキーム】において説明されています。表Ⅰ－2によると、「1つの資料に対する理解度」が試験される設問だということがわかりますが、それは後述の設問Ⅰ (b) と比較し詳細に表現し直すと、「1つの資料から情報を抽出する」というように言えるのではないかと本研究では考えています。

設問Ⅰ (b) では、資料Jからわかるなどを複数示唆することで、最大2点与えられることが【マーカスキーム】において説明されています。表Ⅰ－2によると、「1つの資料に対する理解度」が試験される設問だということがわかりますが、前述の設問Ⅰ (a) と比較し詳細に表現し直すと、「1つの資料から情報を推測する」というように言えるのではないかと本研究では考えています。

このように、設問Ⅰ (a) (b) はともに、1つの資料を読み取る問題でした。そこで、本研究では設問Ⅰに解答するために、「問い合わせに即して、資料で示されている事柄から情報を抽出し、推測する力」が必要だと考察しました。本研究では、この力を「理解」スキルと名付けています。

設問2は、資料Kの価値と限界を出所、目的、内容という3つの視点から分析することで、価値と限界それぞれ最大2点、合計で最大4点与えられることが【マーカスキーム】において説明されています。

このように、設問2は、1つの資料に関して、その価値・限界を分析する問題でした。そこで、本研究では設問2に解答するために、「出所・目的・内容の視点から、抽出した情報をもとに、資料の意義ある点と不足している点を推測する力」が必要だと考察しました。本研究では、この力を「価値・限界」スキルと名付けています。

設問3は、資料Iと資料Jを比較・対比し、2つの資料の明確で妥当な類似点と相違点を見出すことで最大6点与えられることが【マーカスキーム】において説明されています。

このように、設問3は、2つの資料を比較・対比する問題でした。そこで、本研究では設問3に解答するために、「2つの資料から様々な視点を軸に情報を抽出・推測し、それらを類似点と相違点に整理する力」が必要だと考察しました。本研究では、この力を「比較・対比」スキルと名付けています。

設問4は、資料I～Lを証拠として効果的に引用・使用しながら、生徒自身が既存知識を関連づけて統合し、「互いの恐怖が日米間の緊張を高めた」という主張に対する見解を構成することで、最大9点が与えられることが【マーカスキーム】において説明されています。

このように、設問4は、複数の資料と生徒の既存知識の両方を活用する問題でした。そこで、本研究では設問4に解答するために、「問い合わせに焦点を当て、資料と学習者の既存知を関連づける力」が必要だと考察しました。本研究では、この力を「評価」スキルと名付けています。

●◆● | —4— ●◆●

教材研究のポイント

——Q4：どのように教材を収集・選択・加工・配列するか？——

【3つのポイント】

指定学習項目における 教材の特徴

- (1)歴史学者の主張とその主張を根拠づける複数の媒体の異なる史資料
- (2)4つのスキルとの関連
- (3)試験問題1との関連



【教材研究の流れ】

教材の収集

- ・歴史学研究の成果（概説書、学術論文等）に当たる
 - 具体的にどのような出来事や制度が拡張の要因と主張されているかを可能な限り調査する
- 例）日本の政治：不拡大方針、軍部大臣現役武官制など
日本の経済：満蒙権益、世界恐慌、昭和恐慌など
中国の政情不安：国内不統一、国共対立、軍閥割拠など

教材の選択

- (1)4つのスキルとの関連性を意識
 - 指定学習項目では、4つのスキルが獲得されることを目指している
 - 例）「価値・限界」の観点を意識すると…
 - 学術的信憑性のある専門書や公文書
 - 当事者の立場から当時書かれた日記
 - 後に振り返った回顧録
 - 例）「比較・対比」の観点を意識すると…
 - 歴史的事象に対する異なる見解を示す二次資料

教材の選択

- (2)試験問題1との関連性を意識
 - 実際に試験問題1で出題されていた史資料
 - 例）「原典となる史料」や「学術論文の一節」
 - 情報（事実）・主張（解釈）を抽出したり、異なる歴史的見解を持つ「複数の二次資料」を対比したりする問題が出題されていた。
 - 文字資料として一次資料と二次資料を取り上げる際、その媒体に差異を持たせた。

教材の加工

- ①「理解」
 - 歴史学者の解釈が読み取れる部分を引用
- ②「価値・限界」
 - 出所だけでなく、著者情報を付与
- ③「比較・対比」
 - ある主張における異なる見解を用意

教材の配列

- 「理解」→「価値・限界」
 - 「比較・対比」→「評価」
- ①歴史学者の使う方法論
②試験問題1の順序

(1)教材の収集

本研究では、まず歴史学研究の成果に当たりました。歴史学研究の成果とは、概説書や論文等を指します。具体的にどのような出来事や制度が拡張の要因と主張されているのか、可能な限り調査を行いました。例えば、日本の政治については、不拡大方針、軍部大臣現役武官制に関する歴史書に当たりました。日本の経済については、満蒙権益、世界恐慌、昭和恐慌に関する歴史書に当たりました。中国の政情不安については、国内不統一、国共対立、軍閥割拠に関する歴史書に当たりました。

(2)教材の選択

教材の選択では、以下の2点について意識しました。1点目は、4つのスキルとの関連です。指定学習項目では4つのスキルの獲得を目指しています。そのため、例えば「価値・限界」の観点を意識すると、学術的信憑性のある専門書や公文書だけでなく、当事者性や後に振り返っているという限界を示すための回顧録をバランスよく選択しました。また、「比較・対比」の観点を意識すると、歴史的事象に対して異なる見解を示す二次資料を選択しました。2点目は、試験問題との関連です。試験問題では実際に、「原典となる史料」や「学術論文の一節」から情報（事実）・主張（解釈）を抽出したり、異なる歴史的見解を持つ「複数の二次資料」を対比したりする問題が出題されました。そのため、文字資料として一次史料と二次資料を取り上げる際、その媒体に差異をもたせました。

(3)教材の加工

教材の加工では、スキルごとに工夫を行いました。まず「理解」では、歴史学者の解釈が読み取れる部分を引用しました。「価値・限界」では、出所だけでなく、著者情報を付けました。そうすることで、その著者の価値観を踏まえた考察ができると考えました。また、「比較・対比」では、ある主張における異なる見解を用意しました。

(4)教材の配列

教材の配列では、パフォーマンス課題を意識して配列しました。史資料の主張を理解してからでなければ、価値・限界や比較・対比を行うことはできず、価値・限界や比較・対比を行うことなしに評価することもできないという認識の下、各時間で用いるスキルが偏ることのないよう配慮しました。なお、歴史家の解釈方法は、一つのパターンで構成されているわけではないので、配列のパターンは複数あると考えています。配列は、資料の性質や生徒の既有知識などを総合的に判断した上で行われる必要があると言えるでしょう。

(5)教材研究のポイント

以上をまとめると、指定学習項目における教材研究のポイントは3点あると考えます。

- 歴史学者の主張とその主張を根拠づける複数の媒体の異なる史資料を用意しましょう
- 4つのスキルとの関連を意識しましょう
- 試験問題との関連を意識しましょう

●◆● 第 2 部 ●◆●

単元「東アジアにおける日本の拡張政策」の開発
—4時間分のレッスンプラン—

2－1. 単元の全体構造

Q5：事例研究Ⅰの全体構造と第2次のレッスンプランは、
どのような関係になっているか？

2－2. 1時間目のレッスンプラン

Q6：日本の拡張政策の要因は日本の経済状況にあるのか？

2－3. 2時間目のレッスンプラン

Q7：日本の拡張政策の要因は日本の政治状況にあるのか？

2－4. 3時間目のレッスンプラン

Q8：日本の拡張政策の要因は中国の政情不安にあるのか？

2－5. 4時間目のレッスンプラン

Q9：日本の拡張政策の要因は何といえるか？

●◆● 2— | ●◆●

単元の全体構造

—Q5：事例研究Ⅰの全体構造と第2次のレッスンプランは、どのような関係になっているか？—

(I) 単元の全体計画

本ガイドで開発した単元は、事例研究Ⅰ「東アジアにおける日本の拡張政策」(20時間)にあたります。単元は、6つの段階(20時間)から構成しました。以下は、その全体計画をまとめたものです。

事例研究Ⅰの全体計画 (20時間)

次数 (時数)	題材	授業内容 (教材)	「過去の批判的研究方法」その時間に使用するスキルには○をつけています			
			理解	価値・限界	比較・対比	評価
第0次 (1)	IBDP「歴史」の導入	IBDP「歴史」の見通し				
第1次 (5)	指定学習項目の導入 (「拡張の理由」を事例として)	4つのスキルの確認				
		ナショナリズムと軍国主義	○	○	○	○
		まとめ				○
						○
第2次 (4)	「拡張の理由」	日本の経済 (世界恐慌、昭和恐慌)	○	○	○	○
		日本の政治 (若槻の不拡大方針、軍部大臣現役武官制)	○	○	○	○
		中国の政情不安 (日本の対中国認識、リットン調査団報告書)	○	○	○	○
		まとめ	○	○	○	○
第3次 (4)	「出来事」	・ 満州事変 ・ 日中戦争(1937~1941) ・ 日独伊三国同盟、第二次世界大戦、真珠湾攻撃				
第4次 (4)	「反応」	・ 国際連盟、リットン調査団 ・ 中国国内の政治展開、第二次国共合作 ・ アメリカ合衆国の戦略と日米間の緊張状況を含む国際的な反応				
第5次 (2)	まとめ・ふり返り	「東アジアにおける日本の拡張政策」を巡る理由、出来事、反応を史資料に基づいて考察し、単元を通じ「過去の批判的研究方法」の何がどのくらい獲得できたかふり返る				

(筆者作成)

単元の全体計画を概説します。

第0次では、IBDP「歴史」の導入が行われます。単元全体だけではなく、IBDP「歴史」がどのようなものなのかという大まかな流れを生徒と共有することが目標となります。

第1次では、指定学習項目の単元で目標となる4つのスキル（「理解」、「価値・限界」、「比較・対比」、「評価」）の意味合いや使用方法を「確認」します。歴史家が各スキルを用いるときには、それぞれのスキルを分割して用いることはないので、「獲得」の際には一つひとつのスキルに焦点化することはできません。しかし、第1次では、指定学習項目の導入ということもあり、各スキルがどういったものなのかをまずは確認する必要があると考え、「獲得」からではなく「確認」を最初に行うという形を採用しています。各スキルを確認するために取り上げる内容は、ナショナリズムと軍国主義です。教材の配列に従った順序で各スキルを確認します。

第2～4次では、第1次で確認した各スキルの獲得を目指し、パフォーマンス課題に取り組みます。本ガイドでは、第2次の単元計画とレッスンプランを説明しています。第2次の単元計画については、(3)で説明します。

第5次では、本単元（事例研究Ⅰ）全体のまとめと振り返りを行います。単元を通じて、「過去の批判的研究方法」の何がどのくらい獲得できたのか、4つのスキルを視点として振り返ることで、指定学習項目の学びを意味づけます。

次項では、本単元（事例研究Ⅰ）の全体計画を構造図で示しています。表で示した全体計画の流れを、構造図でもお確かめください。

(2)図中の色について

以下のページでは、「単元の全体構造図」「第2次の全体構造図」を示します。図に使われる色の意味は以下の通り、本単元で育成を目指している4つのスキルと対応させています。また、凡例に示している色は、本ガイド p.30 以降で示されている「レッスンプランガイド」で用いる色とも対応しています。

色の凡例

色	意味
青	「理解」スキル
オレンジ	「価値・限界」スキル
緑	「比較・対比」スキル
赤	「評価」スキル

単元「東アジアにおける日本の拡張政策」の全体構造図

単元の問い合わせ：東アジアにおける日本の拡張政策はなぜ、どのように行われたのか？

事例研究Ⅰ：東アジアにおける日本の拡張政策（1931－1941年）

第0次（1時間）：IBDP歴史の導入／単元全体の導入

第1次（5時間）：「日本のナショナリズムと軍国主義が外交政策に与えた影響」

探究の問い合わせ：歴史家が用いるスキルとは何か？

1時間目：日本の拡張政策の要因について考える

2～4時間目：資料読解方法

理解
価値・限界
比較・対比

5時間目：資料読解方法を踏まえ、日本の政策の要因について考える



第 2 次（4 時間）：「日本国内の政治・経済問題、それらの問題が外交関係に与えた影響」
「中国の政情不安」

探究の問い：東アジアにおける日本の拡張政策の要因は何と言えるか？

1 時間目 日本の経済	2 時間目 日本の政治	3 時間目 中国の政情不安
4 時間目：まとめ		

第 3 次（4 時間）：「日本による満州と中国北部への侵略（1931 年）」「日中戦争（1937—1941 年）」「日独伊三国同盟、大戦の勃発、パールハーバー（真珠湾）奇襲（1941 年）」

第 4 次（4 時間）：「国際連盟、リットン報告書」「中國国内の政治展開、第二次国共合作」「アメリカ合衆国の戦略と日米間の緊張状態を含む国際的な反応」

第 5 次（2 時間）：「東アジアにおける日本の拡張政策」を巡る理由、出来事、反応を史料に基づいて考察し、单元を通じ「過去の批判的研究方法」の何がどのくらい獲得できなか振り返る